



生涯学習センターだより

2018. 6. 28 (木) 6月号 (2018 年度第2号 : 通巻 19号) 発行: 秋田県生涯学習センター

あきたスマートカレッジ 総合開講式で5人に奨励証授与!

4月28日(土)、「あきたスマートカレッジ」総合開講式を行いました。式場の3階講堂は200名を超える参加者で一杯となり、式は熱気あふれる雰囲気の中、カレッジ学長の佐竹知事による挨拶で幕を開けました。学長は、今年度のカレッジの特徴について、新企画の官・民・学連携講座と行動人講座を例に挙げて紹介しました。「あきたチャレンジゼミ」では県機関や大学・企業がもつ専門性や教育資源を活用し、体験型の内容の講座を設けたり、点訳のスキルを学ぶボランティア育成の講座では、仕事等で学習時間の確保が難しい方のために、そのほとんどを午後7時から開講する『トワイライト講座』としたことを紹介し、県民の向学心に応えようと努めていることを話されました。



佐竹学長とマナビストたち

続いて、「生涯学習手帳」(自身の学習や活動を記録するもの。県生涯学習推進本部・県教委が発行)を活用して学習の積み重ねを記録し、一定の学習単位を修得された5人のマナビストに対し、奨励証が授与されました。1,000単位修得のプラチナ・マナビストに湯沢市の村上隆悦さん、300単位修得のシルバー・マナビストに潟上市の佐藤有加さん、100単位修得のブロンズ・マナビストに潟上市の中学生、佐藤颯奏さんと佐藤光晟さん、そして秋田市の大橋初代さんに、記念バッジと認定証が佐竹学長より手交されました(右上の写真がそのときの様子です)。

なお、村上隆悦さんと佐藤有加さんは、5月に実施した「あきたスマートカレッジ行動人講座【基礎コース】生涯学習のススメ[マナビスト編]」の講師を務めてくださり、これまでの学習とその成果をどう生かしてきたかを熱く話してくださり、受講者から「学ぶことの楽しさがわかった」「行動人になれば人生が豊かになりそうだ」など、今後の学習への意欲付けになったという感想が多く寄せられました。この講座の様子は、当センターホームページの「あきたスマートカレッジ講座報告」でご覧いただけます。



熱く語りかける工藤進英氏

式終了後は記念講演が行われ、「秋田から発信する医療の知〜大腸がんでは死なせない〜」と題して昭和大学教授/工藤胃腸内科クリニック特別顧問の工藤進英氏のお話を拝聴しました。工藤氏は、世界のがん死者のうち、部位別では大腸がんが最も多く、日本は男性が3位、女性が1位であることを紹介し、大腸がんは早期に発見できれば95%以上は救命可能なので、人間ドックや検診の定期的受診を推奨されていました。また、大腸がんは生活習慣病の代表格と強調され、食生活や体を動かす習慣こそ予防には欠かせないことも話されました。参加者は、時折大きく頷きながら、真剣に工藤先生の話に耳を傾けていました。



7月の講座 開催予定

会場 : 秋田県生涯学習センター

(有料講座の受講料は1回420円です)

●官・民・学連携講座 (無料) 【あきたチャレンジゼミ】

[10:00 ~ 11:30]

7月7日(土) ○すごい! 秋田杉の力
〜木材でつくる橋〜
[講師] 秋田県立大学
木材高度加工研究所
教授 佐々木 貴信 氏

●あきたふるさと講座 (有料) 【あきた温故知新〜風土・民俗・文化〜】

[10:00 ~ 11:30]

7月21日(土) ○菅江真澄が見た男鹿
〜200年前の男鹿から何を
読みとれるか〜
[講師] 男鹿市菅江真澄研究会
会長 天野 莊平 氏

●あきたふるさと講座 (有料) 【県民読書おすすめ講座 〜女流作家作品を読む〜】

[10:00 ~ 11:30]

7月14日(土) ○川上弘美
『どこから行っても遠い町』
〜人のかたち、町のかたち〜
[講師] 秋田大学教育文化学部
准教授 山崎 義光 氏

●あきたふるさと講座 (有料) 【秋田の地域史】

[13:30 ~ 15:00]

7月21日(土) ○文化期の秋田藩の松前出兵
と海岸警備
〜能代〜男鹿地域の海岸を
中心に〜
[講師] 秋田近代史研究会
会員 菊池 保男 氏

秋田県生涯学習センターの仕事には学習機会の提供のほかに、研修の企画・実施、生涯学習・社会教育に関する調査・研究等があります。本紙では、研修に関して5月25日（金）に開催した「新任職員研修」の様子を、調査・研究では6月22日（金）に実施した「第1回調査研究委員会」の内容を紹介します。

生涯学習・社会教育関係者研修 実施レポート①

○5月25日（金） 「新任職員研修」

新たに生涯学習・社会教育行政の現場に着任した職員を対象にした研修会を実施しました。全県から39名が参加し、関係職員に求められる役割や、連携・協働による事業や講座づくりの事例等について、講義やグループワークを通して学びました。

【午前の部】

はじめに簡単なアイスブレイクで緊張をほぐしたあと、秋田大学大学院の原義彦教授から、生涯学習・社会教育関係職員の役割について学びました。基本用語の整理、国や県における政策の変遷について把握し、大きく変化する社会情勢の中で人づくりによる地域コミュニティの活性化が、いま最も求められる社会教育の役割であり、そのために地域の様々な主体と連携・協働が重要であることを確認しました。最後に、地域の課題を理解し、柔軟な発想を大切にしながら、連携・協働のコーディネート役を果たしてほしいとのメッセージをいただきました。



第1分科会「大人が支える！インターネットセーフティ」の研修風景

【午後の部】

高橋保子生涯学習センター所長の講話から、慣れない職場での不安解消には、チームで動くこと、主体的に取り組むことの重要性を学びました。その後は三つの分科会に分かれて、第1分科会では「大人が支える！インターネットセーフティ」、第2分科会は「学校・家庭・地域の連携・協働における現状と課題」、第3分科会では「企業や団体との連携・協働による学習講座づくり」について、それぞれ違った手法によるワークショップに参加し、グループ毎に熱心な話し合いが行われました。最後に各分科会の内容を報告し、全員で研修の成果を共有して研修会は閉会となりました。

参加者の声（抜粋）

- ・「自分がイメージしないことは実現しない」という、最も大切な心構えを学んだ。
- ・連携による双方向のメリットが、ヒントになった。今考えている企画案に採用したい。
- ・公民館でも単に事業を実施するだけでなく、地域とWin-Winの関係を構築すべきだと感じた。
- ・基本的な事柄を学ぶことができた。今後も研修会等に参加して、知識を増やしていきたい。

平成30年度 秋田県生涯学習センター調査研究事業 推進レポート①

○6月22日（金） 「第1回調査研究委員会」



第1回調査研究委員会の様子

生涯学習センターの大切な機能として、①調査研究 ②研修 ③学習機会の提供の3つが挙げられます。調査研究は中でも、政策の立案、研修や講座の企画等、全ての基盤となるものであり、生涯学習センターの重要な柱となっています。

現在の調査研究は、「連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究―多様な連携・協働事例から見る社会教育行政の役割と可能性に関する考察―」をテーマに3年計画で進めています。1年目が市町村生涯学習・社会教育主管課と大学、2年目が市町村主管課と高等学校の連携・協働に着目して調査しました。3年目となる今年度は、市町村主管課と企業や民間団体等との連携・協働に着目して調査をする予定です。

大学・高等学校とは違い、教育機関ではない企業や民間団体等との連携・協働に関する調査ということもあり、企業、民間団体、大学教授、市町村教育委員会等、さまざまな立場の方に委員をお願いしました。「現状だけでなく、市町村がつながりたい企業や団体を聞いてみたら」「報告書だけでなく、チラシのようにまとめれば成果を広めやすいのでは」など、様々なアイデアが出されました。この委員会での意見をまとめ、7月から調査を始める予定です。